

榊原澄人
Sumito Sakakibara

中之島パビリオンフェスティバル2025

アニマル

Animal & Personale

大阪大学
中之島芸術センター
4階展示室
アニメーション展

アーティストクロストーク
5/10 sat 15時〜16時半
【会場】3階スタジオ
【参加料】無料
申込不要

2025

5/10 sat ~ 5/24 sat 10:30~17:00 月・祝閉場
入場無料

副島しのぶ
Shinobu Soejima



NAKANOSHIMA
PAVILION
FESTIVAL 2025



大阪大学中之島芸術センター art space kimura ASK?

アニメ・パーソナル

近年では「一人一人のいのち」を大切にするとしつつも社会問題における諸問題の解決を目指し、基本的には「ソーシャルないのち」を見ている。そこでの一人一人のいのちは比較可能で等質的な「いのち」に置き換えられる。そこに含まれない「いのち」は存在することができない。

取り残されたいのちは一人一人に潜在しており、誰もが少しの死と痛みを持っている。個性や当事者性、異質性、潜在性こそが「二人一人のいのち」という人間の根本である。それは芸術の根本でもあり、創造の様式だ。芸術制作は、本来的にパーソナルなものでありながら個別から普遍へと転回する力を持つ。

「パーソナルないのち」に焦点を当てたアニメーションによる作品を通して真に一人一人の個別的ないのち（＝アニメ）に息を吹き込んでみよう。

榊原澄人《イヅナアナクロニクル》11分33秒、アニメーション、2021



【作家経歴】

榊原 澄人 SAKAKIBARA, Sumito

1980年生まれ。北海道浦幌町出身。長野県在住。幼少を北海道十勝で過ごす。15歳で渡英後、文化庁海外派遣生を経て、Royal College of Art (英国王立芸術大学院大学) / MA Animation 科を卒業。2006年 La maison des auteurs (アングレーム市)、2007年韓国 Sai Comics のアーティストレジデンスを経て、現在長野を拠点に作品を制作している。主な受賞歴に平成17年度文化庁メディア芸術祭アニメーション部門大賞 (2006)、オタワ国際アニメ映画祭ノンナラティブグランプリ (2022) など多数。

<http://sumitosakakibara.com/>

副島しのぶ SOEJIMA, Shinobu

美術家・アニメーション作家。立体アニメーションの技法を使った短編映画や映像、写真、立体作品を制作。アジアの民間伝承や民族文化のリサーチを通じて、影と光、死と生など対立し合うものの同士の均衡や狭間をテーマにしたナラティブな映像表現を試みる。主な受賞歴に第68回オーバーハウゼン国際短編映画祭 エキュメニカル審査員によるスペシャルメンション賞、第22回文化庁メディア芸術祭審査員推薦作品、アートアワードトーキョー丸の内2018 木村絵理子賞など、国内外の映画祭で受賞、展覧会で発表。東京藝術大学映像研究科博士課程後期在籍。

<https://www.shinobusoejima.com/>

アニメーション制作における時間性や物質性、リアリティの個性と普遍性などの問題をめぐり、「いのち」にまつわる議論を呼び込んでみる。

展覧会記念クロストーク

5/10 (sat)
15時～16時半
【会場】3階スタジオ
【参加料】無料
【申込】不要

【登壇者】

- 榊原澄人 (本展招待映像作家)
- 副島しのぶ (本展招待映像作家)
- 伊東信宏 (音楽学・大阪大学教授)
- 郡司ペギオ幸夫 (天然知能研究・早稲田大学教授)

進行：中村恭子 (日本画家・大阪大学准教授)



副島しのぶ《私の横たわる内臓》11分、アニメーション、2024



NAKANOSHIMA
PAVILION
FESTIVAL 2025



中之島パビリオンフェスティバル 2025
中之島芸術センター企画展「アニメ・パーソナル」
大阪大学中之島芸術センター

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島4丁目3-53
大阪大学中之島芸術センター4階展示室

【開場時間】5月10日(土)～5月24日(土) / 10:30～17:00 / 月・祝閉場

【入場料】無料

【問合せ先】secretary.art@ml.office.osaka-u.ac.jp (事務局)
kyoko.art@osaka-u.ac.jp (中村恭子)

【主催】大阪大学中之島芸術センター

【協力】アートスペースキムラ ASK? art space kimura ASK?